

BtoB 事業の成長を支える東日本最先端フラッグシップセンター 「ASKUL 東京 DC(ディストリビューションセンター)」開所式開催

アスクル株式会社(本社:東京都江東区、代表取締役社長:吉岡晃、以下「アスクル」)は、2022 年 11 月に予定している「ASKUL 東京 DC(ディストリビューションセンター)」(以下、「東京 DC」)の全面稼働に先がけ、2022 年 10 月 26 日に開所式を行いました。

アスクルは全国のお客様に当日・翌日配送を実現することを目指し、都市部を中心に全国 9 拠点に物流センターを構え、そのすべてを自社グループで運営しています。人手不足と高い生産効率を実現するため、従来センターで培った知見や最新技術を用いた物流設備を導入し高度自動化を進めています。中期経営計画(※)で掲げた BtoB 事業の高い成長を支えるため、10 拠点目となる東京 DC を新設します。(※)2022 年 5 月期~2025 年 5 月期

今後も物流センターにおける最先端技術の活用や高度自動化を積極的に推進し、さらなる企業価値の向上に努めてまいります。

■東京 DC 2022 年 11 月全面稼働へ

2022 年 10 月 26 日、多くの関係者のご列席のもと、東京 DC の開所式を行いました。



左から、村田機械株式会社 代表取締役社長 村田 大介様、アスクル株式会社 代表取締役社長CEO 吉岡 晃、日本自動車ターミナル株式会社 代表取締役社長 藤田 裕司様、トヨーカネツ株式会社 取締役会長 柳川 徹様

<「東京 DC」の特徴>

(1) 庫内空間の有効活用を実現する「高密度設計」

限られた庫内の空間を最大限に活用するため、4 階・5 階部分を貫きワンフロアとしたうえ最大の高さまでの自動倉庫を導入、また、庫内搬送にアスクル物流センターでは初となる「スパイラルコンベア」を導入するなど空間の使い方を工夫し、高密度設計を実現しました。賃借面積が近似である ASKUL Logi PARK 横浜(ALP 横浜)との同面積あたりの比較では保管効率 1.5 倍、在庫アイテム数は 2.6 倍を予定しています。

(2) 方面別仕分け・積み付け作業の効率化などによる「高生産性」を実現

お客様の荷物を配送方面別に仕分ける工程に「シャトルシステム」を活用し、同一方面の荷物の重さ・大きさ順に連続で出庫する仕組みを導入しました。これにより従来、積み付けの際に発生していた配送方面別の手仕分け作業や荷物の重さ・大きさにより積み付けし直しなどの「やり直し」の作業が大幅に減少し、現場の運用性を大きく向上させます。ALP 横浜との比較で出荷能力は 1.3 倍、庫内費 20%低減を実現する予定です。

(3) 駅や高速 IC に近くアクセスしやすい「好立地」、健康に働ける「環境」

葛西臨海公園駅から徒歩圏かつ、首都高速湾岸線「葛西」IC が至近である立地のため、首都圏へのスピーディな出荷と配送を実現。近隣人口も多く、雇用環境にも恵まれた立地になります。

また東京 DC では、働くスタッフへ昼食を無償で提供し、健やかに働ける環境づくりに努めます。

<施設概要>

名 称:ASKUL 東京 DC(ディストリビューションセンター)
所 在 地:東京都江戸川区臨海町 4-3-1 葛西トラックターミナル内
竣 工:2021 年 7 月 1 日
稼動開始:2022 年 11 月(予定)
敷地面積:185,000 平方メートル(約 55,962 坪)
延床面積:56,255 平方メートル(約 17,017 坪)
建物階数:地上 5 階建(全棟賃借)

<関連プレスリリース>

●2021 年 7 月 12 日:東日本最先端フラッグシップセンター「ASKUL 東京 DC」竣工
<https://pdf.irpocket.com/C0032/KteM/IZYF/dbha.pdf>

※本リリースに掲載の情報は発表日現在の情報です。その後予告なしに変更されることがございますのでご了承ください。